

Introduction of Staff

スタッフ紹介



用務員 井原 幸江

はじめまして、昨年4月より用務員として勤務しています、井原と申します。クリニック内が清潔に保てるようこころがけて一生懸命がんばりますので、よろしくお祈り致します。

お知らせ

人間ドック・脳ドック・大腸ドック・肺ドック・認知症ドック  
受付中！詳しくはスタッフまでお気軽にご相談ください。

院長の巻頭言

頌 春、あけましておめでとございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。1月(睦月)といえば、寒中見舞いの時季ですね。世界ではコロナ感染者が落ち着いている国も出てきている中、日本は全国的にコロナ感染者が増加傾向で、いつになったら落ち着くのでしょうか。新春の寿ぎも束の間、昼夜を分かたず、新型コロナ感染症への対応を余儀なくされている医療従事者の皆さまにはお疲れさです。そのような中であって、全国の医師が医療現場で培われた知見をもってすれば、必ずやこの感染症を克服して平穏な日常を取り戻し、明るい未来へとつなげていくことができる

と確信いたします。2023年は「癸(みずのと)卯(うさぎ)」年です。卯年は毎年変わる十二支の一つで、十二支の中で4番目。あまり聞き覚えのない癸は、十干の最後の要素で陰陽五行説では水の陰です。式相場には、「辰巳天井、午尻下がり、未辛抱、申酉騒ぐ、戌は笑い、亥固まる、子は繁栄、丑はつまずき、寅千里を走り、卯は跳ねる。」という格言があります。兎には跳ねる特徴があるため、景気が上向きに跳ねる、回復すると言われており、株式市場にとっては縁起の良い年のようです。うさぎは穏やかで温厚な性質であることから、「家内安全」。また、その跳躍する姿から「飛躍」、「向上」を象徴するものとされてきました。他にも「植物の成長」という意味もあり、新しいことに挑戦するのに最適のようです。

また、癸が持つのは第10位であり、物事の終わりと始まりを意味する他、「揆(はかる)」という文字の一部であることから「種子が計ることができるほどの大きくなり、春の周近でつぼみが花開く直前である」という意味です。「卯」はもともと「茂」という字が由来といわれ「春の訪れを感じる」という意味、また、「卯」という字の形が「門が開いている様子」を連想させることから「冬の門が開き、飛び出る」という意味があるとされています。この2つの組み合わせである癸卯の今年には、「これまでの努力が花開き、実り始めること」といった縁起の良い年です。

兎のつく文字と言えば、「兎に角」、「兎角」、これらは「兎角亀毛」という実在しない例えた言葉。またイソップ物語にある「ウサギとカメの競争」の寓話を思い出します。走る才能はあっても仕手を侮り、油断すれば負けるという戒めのお話ですが、大事なものは視野の狭い勝敗観ではなく、互いに良い関係を保ちながら個性を発揮して生きることだと思います。眼前の結果を性急に求めすぎて、事象を深く理解する暇もなく、改革を進める政府には辟易とするばかりか、先行きの不安を感じざるを得ません。

さて、私の2023年の四緑木星は、星が本来の位置に戻り、世の中の中心に座る。世界中で身勝手な振る舞いが横行する中、事態を取捨する役割が、中心に座る者に自ずとやってくるようです。優先すべきは、家族や親しい友人などの世話。「いままでの発展は誰に支えてきたのか」ということを思い返し、相手の欠点ではなく長所を探すことを心がけて接したいと思えます。また、四緑木星は旅行が吉を招くので、家族を誘って積極的に出かけようと思えます。また、健康面では万病のもとであるストレスを解消しないといけないようです。これまでだましだましやり過ごしてきた問題が生じやすいようです。また、2023年は身体の無理も利いてしまうため、年齢も考えて休みを十分確保したいです。

ところで、鋭い嗅覚を生かし、がんなどの疾患の有無を嗅ぎ分ける医療探知犬は、新型コロナウイルス感染症の有無も判別できることが報告されました。ドイツのHagen博士らは、COVID19のスクリーニング検査における医療探知犬の有効性について、8匹の医療探知犬を対象に2,802例の検体を用いて検討。その結果、特異度99.9%、感度81.6%と、世界保健機関(WHO)の推進基準を超える診断精度だったことから、「医療探知犬は信頼性の高いCOVID19のスクリーニングツールになりうる」と報告しました。

訓練された医療探知犬は、唾液、汗、尿などの体液や、使用済みのマスクなどの検体を基に、COVID19の陽性者と陰性者、および他のウイルス感染者を判別できる。新型コロナウイルス感染症テストセンターで、参加者にコットンで両肘窩を拭いてもらい汗の検体を採集。スクリーニングは2匹の医療探知犬が行い、2匹とも陽性と判定した場合を陽性、それ以外の場合は陰性とした。また、全参加者にCOVID19の臨床現場即時検査(point of care testing;POCT)とPCR検査を実施し、年齢、性、ワクチン接種状況、病歴に関する情報を入力。PCR検査を標準基準として各回に応じた感度と特異度を決定しました。解析の結果、2,802例中38例がPCR検査で陽性と判定され、有病率は1.34%でした。

医療探知犬によるCOVID19陽性の識別力は、感度81.58%、特異度99.93%で、医療探知犬の診断一致率は全体で99.68%だった。各回の精度有意差はありません。なんと陽性適中率は70.02%、陰性適中率は99.96%。この結果、Hagen博士らは「医療探知犬によるスクリーニング検査で達成された感度と特異度は、WHO推奨するPOCT検査の基準である特異度97%以上、感度80%以上を超えました。COVID19の集団検査において、医療探知犬を用いた検査は信頼性の高い手法」と結論しています。犬の嗅覚は以前癌探知犬のお話をしたと思いますが、嗅ぎ分け能力が素晴らしいですね。麻薬捜査犬だけではなく、犬のお仕事は医療界でも徐々に増えつつあり、犬との共生が欠かせない時代に来ています。

それでは今月の主題であります『マイナンバーカード』についてお話ししたいと思います。皆さまはすでにマイナンバーカードをお持ちですか。私はまだマイナンバーカードを持っていませんし、持つつもりも予定もない。2022年の9月までの取得率が約半数という現状に対して、2023年4月までに医療機関を利用して、保険診療をマイナンバーでの受診に切り替えてきている。マイナンバーカード普及の政府の進め方はドイツ帝国のビスマルク宰相顔負けの露骨さだ。「アメとムチ」を利用して国民をだまし、国民の所得などの膨大な情報を一堂に掌握するつもりだろう。アメはカード取得でもらえる子供だましのようなチンケなポイントでキャッシュ決済に使える。2年前に開始したが、普及が進まないために増額。実施期間も延長ときた。ムチは普及が進まない自治体へ地方交付税の配分に差を付ける。そして国民が取得せざるを得ない強引なやり方が続いた。政府は、当初任意取得でよいはずのマイナンバーカードを、この数年でマイナポイント付与での促進から、とうとう保険証と紐付けを条件(人質政策)として、原則義務化ときている。マイナ保険証を使えば、初診で12円、再診で6円受診料をマイナ保険証より高くする。持てぬ人や持たぬ人さを困らせておいて、「マイナならお得です」はないでしょう。メリットが明らかで安心ならば要らないアメ。その費用は2米円超にも及ぶと言われる。もちろん税金が充てられる。そこまでしてもマイナンバーが欲しい政府の本当の理由を考えてみてください。膨大な個人情報スイッチひとつで丸裸にされるようなもので中国共産党のような国民支配をしたいわけですよ。くだらないアメにほだされてはいけません。保険証を人質に取られて悪人(政府)の言うことに従わなければ医療を受けさせてもらえない。或いは踏み絵を踏まなければ(マイナ保険証を取得しなければ)非国民として医療を受けさせない、政府はそんな卑劣な手段を強いているのだ。

さらに、そしてデジタル庁長官からの驚くべき発言は、来年秋には、現行の保険証を廃止するという愚行を犯そうとしている。現状でも保険診療の現場では、マイナンバーカードでの認証時にトラブルなどが窓口で起きています。現行の保険証があるからこそ本人確認の補完ができています。廃止したらどのようにしてマイナンバーカードのない患者さんは保険診療にかかれようのか。マイナンバーカードを忘れた場合や、紛失した時の再発行までの期間や、5年ごとの再更新時においては、医療機関を受診する際の資格の確認、各種受給者証や各地地方行政の違いによる窓口負担金額の違いなどは、どのように確認するのでしょうか。政府の言うように間違いなく速やかに各種情報がマイナンバーカードに反映されことになるのか。セキュリティ上の問題や盗難、悪用の問題は本当でないのか。オンラインでのトラブルは今後大規模なトラブルにはならないと言いきれるのか。現行の保険証廃止論は時期尚早すぎるかと確実に言える現状です。なぜ政府はそれほどまでにマイナンバーにこだわるのか、焦っているのか。政府のマイナンバーカードありきでの政策の本当の目的は何なのか。そこに隠されたこの愚行を急ぐ本来の意味がありそうだ。

さて、大相撲初場所が今月やっています。平幕の前頭うん枚目の御嶽海関(一応、元大関)はどんな相撲を見せてくれるのでしょうか、楽しみにしています。それでは今年一年またお付き合いの程よろしくお祈りします。ごきげんようさようなら。



まるやまファミリークリニック院長

医学博士 丸山 哲弘



～インフルエンザワクチン  
予防接種予約受付中～



年末にかけて飯田市内でもインフルエンザが複数例確認されており、まだワクチンを受けていない方、2回目を検討されている方はぜひ1月中の接種をおすすめしております。昨年とは異なり、ワクチンの在庫は十分に確保しておりますのでお問い合わせください。

# アルツハイマー病予防 ～リコード法～



今年から長期に渡って連載していく「アルツハイマー病」今月はその原因と3つのタイプについてご紹介いたします。アルツハイマー病の原因は脳の穴？今までの治療の限界？いままで解明されてこなかった病態を解き明かします

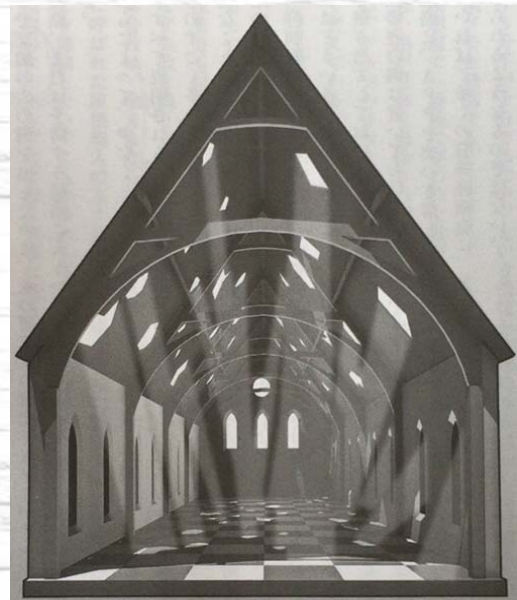
## ～そもそもアルツハイマー病とは？～

アルツハイマー病は記憶、思考、行動に問題を起こす脳の病気です。通常の物忘れ（良性健忘）とは異なります。今回はアルツハイマー病の原因について深堀していきます。

### 「脳の屋根に開いた36個の穴が原因！？」

アルツハイマー病の病態には少なくとも36個の複合因子が寄与していると言われていたため、従来の薬物療法を行ってもこのうちの1つの穴しか塞ぐことができません。1つの穴を塞いだけでは大量の雨水が流れ込んでしまい、原因の解決には結びつきません。しかし、36個の穴、すべてに対処する必要はありません。大量の雨漏りもすべての穴を塞ぐことは困難ですが、大きな穴から塞いでいくことで被害（神経変性）を最小限にとどめることができるように、アルツハイマー病を引き起こさせる原因となっている穴（経路）さえ塞いでしまえば、アルツハイマー病を引き起こせるだけの時間や力を最小限に抑えることができます。

どのくらいの穴が開いており、何が原因なのかは人それぞれ違ってきます。「これだけしておけばいい！」というものはありませんので、36個まんべんなく塞ぎこめるような生活習慣を実践することが必要になってきます。



アルツハイマー病真実と終焉より引用

### 「真の原因3タイプ」

ブレデセン医師らのグループは「脳に溜まったアミロイドβを除去する」ということから一歩進んで「なぜアミロイドβが脳に溜まっているのか」を研究した。その結果アミロイドβの蓄積は「脳の正常な防御反応によるもの」であることを突きとめました。

#### ①炎症 ②栄養不足 ③毒素

この3つの脅威にさらされるとそれらに対する「防御反応」の一環としてアミロイドβを集積させて、脳自体を守っていることが明らかになった。アミロイドβは単なる悪者ではないのです。

しかし、脳に対する脅威が一向に収まらない状態が続いた場合、本来脳を守るために出陣した、アミロイドβ自体が過剰になってしまい、結果的に脳神経を破壊してしまうことも解明されました。ブレデセン医師はその3つの主要な原因に対応して病態を4種類に分類しました。

#### ①1型アルツハイマー病（炎症性） ②2型アルツハイマー病（萎縮性） ③3型アルツハイマー病（毒性） ④1.5型アルツハイマー病（糖毒性）

に分類され、患者さん一人ひとりに治療を最適化しない限りは、アルツハイマー病の治療にならないこともわかってきました。

次回、タイプ別の特徴を掘り下げます。

当院の設備紹介

PHYSIO SONO **NEW**

深部・浅部・広範囲に幅広く使える超音波治療機



フィジオソノはコンパクトなデザインながら3Mhz&1Mhzを同時に出力が可能な超音波治療機です。もちろん深部のみ、浅部のみでの治療も行えます。急性期には音圧、慢性期には温熱と症状に合わせて治療方法を選択していきます。肩・腰・膝など場所を選ばず治療することができます。筋肉痛、関節痛など気になる方は一度先生にご相談ください。痛みとおさらばできる日が来るかもしれません。